



JCNA通信 第31号

発行日 2022.3.1
発行人 山口 郁乃
編集人 藤井 智恵美
創立 1957 (S32) 年

会長挨拶

「今を生きる私たちの選択」

JCNA 第7代会長 山口郁乃

みなさま、「今を生きる私たちの選択」は第57回全国大会 in 広島テーマでした。

この「ウイルス感染症が蔓延する時代」が私たちの「今」になっています。お疲れと思いますが、ただ激しい疲れの中で終息を待つのでなく、終息した日には元気よく活動できるように次の時代を選択。

身近な高齢の神父様がパソコンなどの機器を使いこなしておられることに感心していましたが、その理由は「パソコンやスマホを使いこなすのも奉仕」という考え方だと知りました！確かに、使いにくい機器にふりまわされながらも互いをつなぐ方法であり、奉仕の方法になるかもしれません。

さて、歴史をつなぐ振り返りの中で、JCNA通信の在り方も検討しました。

第4代会長薄島和子様原稿は、オンライン研修と重なる内容もありますが、参加できなかった方のため後半を掲載します。また、こここのところ会員の交流に重点を置いていましたが、以前には総会の報告も丁寧に掲載されていた事実に鑑み、今回は、第66回全国総会（オンライン）の決定事項を抜粋して掲載します。お目通しください。

大切なことは、「通信」がJCNA会員の一体感の醸成に資することと考えています。よろしく！

通信30号から続く～～いま、この時、歴史をつなぐ

◆JCNAの思い出より

2021.9.9 薄島和子

通信30号に続き、JCNA第4代会長 薄島和子様の「JCNAの思い出」の文章後半です。

日本で1993年に開催されたCICIAMSアジア大会、浜尾司教様やSr.寺本松野も登場いたします。

昨年11月27日には、薄島和子さんと本部顧問司祭暮林馨様との「JCNAの思い出」についての対談を聴いてくださった方もいらっしゃると思います。そのお話とも合わせてお読みください。

(1) アジア大会に向けて ― 開催までの経緯

当時、支部長は若い方をお願いして、私は後方支援の担当に回っておりました。

ところが、CICIAMSアジア地区の評議員を担当しておられたSr.沢禮子(聖母短大学長)が、評議会で「ぜひ日本で、世界大会か地区大会を開催して」と懇願され、弱りはて「アジア地区大会開催」を引き受けてこられました。評議会が「日本の開催地は東京」というのを「東京は物価が高くて開けません」とお断りして、「名古屋開催」と言われて名古屋支部長が総会から戻って報告をしました。当時世界大会と地区大会はだいたい4年毎に交互に開催されており、世界の地区は五大陸に分かれてまとめられていて、アジア地区ではインド、マレーシア、フィリピン、シンガポール、香港、と次々と開催されていて、日本も逃れられなくなったというのです。更に「大会実行委員長は名古屋

支部から選出、薄島??)、なんということでしょう。「青天の霹靂」とはこういうことでしょう。後方支援の役に徹していたつもりが先頭に押し出されました。日本でアジア大会が開催されたのが1993年、その5年前1989年香港大会の直前の出来事でした。大会会場から宿泊ホテル、通訳、と全て頭痛のタネで、携帯電話もない、我が家にはFAXもない、勿論大会運営費なるものもない、無い無い尽くして動くことになりました。水野しづ会長と Sr. 澤が毎月名古屋においでになって実行委員会が50回を数えるまで開催されることになりました。シスターは短大がおわってから新幹線に飛び乗り、水野さまは瀬戸陶生病院時代からご親戚に近いお付き合いのお宅に泊まれ、深夜まで会合し、準備を進めていきました。

ここで資金源に「テレホンカード」を作り、印刷して販売し、利益を大会運営に充てることにしました。NTTから印刷前のテレホンカード500円のを1000枚購入して印刷し、全国の会員が関係者に購入していただくことに協力してくださいました。この時テレホンカードのためにと100万円を寄付してくださる会員がいて、二回目、三回目、四回目と印刷して販売していきました。今のようスマホがあったら出来ないことでした。資金準備もそうですが、当時名古屋には同時通訳担当がお一人しかおらず、会期中、午前午後と通訳していただくためには、やはり東京からお呼びするしかなく、その経費、宿泊費など数字に弱い私には想像を超える金額でした。国際大会の開催申込みを名古屋市コンベンションビューローにしたところ、担当したい業者が勤務先に押し付けてきました。これを裁くのも私の仕事になりました。やがて実績からJTBの子会社で国際担当の会社に決められ、その助けも頂きながら、講師や会議の内容に集中して準備が進められていきました。

ホテルは600人収容の名古屋クラウンホテルに当初300人分と、日本カトリック研修センターを期間中全館借り切り、要人の宿泊と、会場誘導など担当してくださる聖母短大の学生、聖霊病院付属看護専門学校の学生さんに利用していただきました。

大会開催ミサのため、ウエルカムパーティーのための会場には少し苦勞をしました。

名古屋国際会議場は全面協力してくださいましたが、どこの国でも「カテドラルで開会ミサ」という習慣には布池教会のパーティー会場がお借りできず、結局カトリック南山教会をお借りしました。合わせてウエルカムパーティーは南山学園講堂下の会議室全室をお借りして行われました。何しろ参加者が400名をこえ、「日本だから行きたい」という望み全部に応えることはできず、アジア地区17カ国から1名ずつ招待しました。他にヨーロッパやベルギーの本部役員、会長や理事会メンバーがおいでになりました。往復の渡航費、滞在費、大会参加費など全てです。これも国際大会の習慣だそうで、逆の時は「日本は裕福な国だから」と自費とのことでした。

この間、水野会長はそれこそ自費で全国の修道会を巡り、会員シスターたちの参加費を出していただくようお願いにあたっておられました。お知り合いの社長や会長にはご協力を願い、お願いした時はバブル全盛期、実際に献金を頂く年にはバブルが弾けた時になっていましたが、「水野さんに約束したのだから」と100万円200万円とご寄付を頂きました。勿論全国のJCNA会員も大会参加費の他に旅費宿泊費が必要ですのでよく協力してくださいました。私もこの時初めて「名刺」を作ったのですが、「南山学園」の名は地元では有利に働き、卒業生やその保護者の方があちこちにおられ、わずかなことですが便宜を図って協力してくださいました。

外国からの申込みで困ったことは「東京に泊まります。名古屋に通います。名古屋ってどこにあるの?」と言うことがありました。また届けられた到着予定空港が成田と名古屋で、それぞれに「国際大会が開催され、来日されます」という書類を届けていたのに福岡空港からの問い合わせが

入ったり、という番狂わせがあり、「成田と名古屋には提出済みです」と言って入国させていただきました。さらに名古屋空港では予定の便以外に到着して夜中に聖霊病院のマイクロパスがホテルと空港を往復してくださいました。出迎え係の Sr. 澤は業者からお借りした「携帯電話」がこれまた大きく重いのに、それを持って名古屋空港でのお迎えを担当してくださいました。

開会ミサはカトリック南山教会で参加国の国旗を看護学生が持って入場し、祭壇を取り囲みました。ここでの番狂わせは「記録係」の業者が時間になっても来ないのです。開会式はミサの後、だから開会式に間に合えば良いでしょう、というのが理由でした。「ミサから始まってミサで終わる」、これは私たちの習慣で、社会では「開会式から閉会式」迄なのです。そういうわけで開会ミサで説教をしてくださった濱尾文郎司教様(後日に大司教・枢機卿)の記録がなくなりました。当時 JCNA は社会福祉委員会の傘下で、濱尾師は委員長でした。また司教様は当時、日本と国交のないベトナム共和国からの参加者のため、外務省に出向き、日本国内での責任者として届けていただき、これも「濱尾」という名で信用されたようでした。また国際会議場に掲揚する国旗についても、国交のない国の国旗は掲揚することが許されていませんでしたが、それでもお願いして掲げて頂きました。但し条件付きです。それは「国交のない国の国旗だ」と申し入れがあればおろしてよい、ということです。平和はこういうことにも影響を与えるのですね。幸い下すことはありませんでしたが、

南山教会での国旗掲揚に、自国から国旗を持ってきた参加者が「是非我が国の国旗を掲揚してください」と涙ながらに訴えられました。私は参加者全部の国旗を国際センターからお借りして準備をしていましたので、「あなたの国の国旗はありますよ」と言うと、とても嬉しそうでした。あの時の涙の笑顔をいまだに忘れられません。日本人が君が代や国旗に対する態度を見る時、「あのように国旗を大切にしている国があるのに」と思い出します。

準備にはいろいろ教えていただき、対処したつもりでいましたが、ぬけ落ちがたくさんありました。真夏なのに振袖を準備してくださいましたお茶接待係の横浜支部の皆さま、ごめんなさい。白鳥公園のランチ後のお茶接待は担当していただきありがとうございました。その日看護学生が白衣のままで「お運び」に汗を流してくださいました。最終日に気が緩みました。私の責任です。

会期中、ランチの数が合ったことがありませんでした。数が足りず、ランチを追加注文して4時頃頂いたことがあります。飲物も自由にしたのですが、缶を開けて捨てるということが多くて、「お金を出して買っているのです。大切に飲んでください」と注意していただいたこともありました。色々な種類を沢山飲んでみたかったのでしょう。

会期中、お借りした通訳の受話器はきちんと返却されました。これも不足すると弁償対象になるものでした。医学用語や宗教用語の出でくる、こういう大会は通訳の方も大変だったようです。でもブースは三人一組で頑張ってくださいました。これからの若い方々はせめて英語はマスターしてください。

講演内容は大会誌をごらんください。濱尾司教様は Sr. 寺本の講演「看護婦の希望と喜び 看護者養成への期待」までお聞きくださり、国際会議場から直接お帰りになられましたが、「看護婦さんは素晴らしい。」と最高の賛辞を残してお帰りになられました。この度の大会はこのひと言で成功と確信できてとてもうれしかったです。

CICIAMS のお話はこの辺までにして、次にはいります。

(2) 日本カトリック医療団体協議会のことです。

私が水野しづ様から引き継いだことの一つにこの件がありました。

「日本カトリック医師会(JCMA)会長の橋本一成先生の頃から話題になり、次の竹内正也先生が強力にこれを推進され、現在会長の石島武一先生に引き継がれています。カト医師会、カト医療施設協会、そしてJCNA、この三つのカトリック司教協議会公認団体が、お互いに力を合わせてキリストの福音の普及を目指すことにしたら、教会の大きな力になるでしょう」というような主旨でした。

始まりは当時、市ヶ谷の援助会修道院の宣教室をお借りして本部役員会を開催していた私たちの会合に、カト医師会の本部役員の先生方がおいでくださり、二者で打ち合わせをいたしました。その後、私たちJCNAが総会を開催している名古屋の現在の南山学園研修センターで、総会プログラムを一部変更して、初めて三者が集まりました。

即ち日本カトリック医師会の本部役員の先生方と、日本カトリック医療施設協会理事の方々、そして私たちJCNAは本部役員の他に、JCNA総会参加の各地の支部長がいらしていましたので、時間の許す方々にはオブザーバーとして参加していただき、会合を見守っていただきました。

そこで決定された主なことは、カトリック公認団体の集まりとして「日本カトリック医療団体協議会」を設立する。議長は、「医師会会長が担当、書記、議事録をJCNAが担当し、医療施設協会が事務局及び会合の会場を設定する」ということでした。医師会の石島先生を議長に、当時担当しておられた姫路聖マリア病院の理事長 Sr. 古川、そしてJCNAは私、薄島が責任者として書記にあたり、議事録を作成して原案を施設協会の事務局にお委ねするというルールが始まりました。

年四回開催されている「医療施設協会」の理事会に年二回JCMAとJCNAの代表者が出席して、ご一緒に相談をしていく。参加者の交通費は、それぞれ各グループが負担する。

そして第一回の三団体全国大会を長崎で開催することを決定し、三者で業務分担を行いながら実施されたのが、2009年(平成21年)の長崎大会で、「人に仕える医療」という大テーマのもとに集まりました。またこの三団体協議会に参加していくためには、組織として「カトリック公認団体」の承認を受けていることが条件とされました。当時、次々と誕生していた「カトリック系看護大学」にも参加していただきたいとの声が出ましたが、まず「看護大学」の纏まりが「公認団体の承認をうけること」が求められ、いまだに加入はされていません。また「カトリック福祉施設協会」も大きな組織になっていますが、三団体協議会に団体加入はされずに、個人として全国大会には参加されています。時間とともに次第に教会の中で福音の光を掲げる兄弟姉妹として共に歩むことを期待しています。

(3) CICIAMS シシアムス (仏語の頭文字からそう呼ばれている)

1932年 ベルギーのブリュッセルで「国際カトリック看護協会(ICCN)が設立され、最初の世界大会が1933年にフランスのルルドで開催されました。以後 世界の多くの国に広がり、1946年には広く、医療・看護・保健・社会福祉従事者による組織として編成されました。JCNAもCICIAMSの構成メンバーです。

手元に残されている2014年の資料は2014.7.7付の発行で、5代会長の城麗子氏と副会長 Sr. 沢禮子氏のご努力で翻訳・印刷され、JCNA全会員に配布されました。その主な内容はCICIAMS倫理ガイドライン 第一章 カトリック看護師の社会的責任 第二章 霊的・司牧的責任 第三章 カトリック看護師の職業的責任 第四章 生殖医療におけるカトリック看護師の責任 第五章 臨終期の患者および重症患者の看護 結び となっています。お持ちの方は今一度、目を通していただくと幸いです。

社会の動きに流されがちな現代ですが、以前はこうであったから今このようになっている、ということを理解した上で行動したいと思います。古いものが全て「古い」のではなく、その中に真珠のように光輝くものを見つけて大切に、そんな人生を送りたいものです。

最後に ヘンリー・ニューマン枢機卿の「キリストの輝き」をもって閉じたいと思います。ジョン・ヘンリー・ニューマン枢機卿は 19 世紀イングランドの神学者で 2010 年に列福され福者と認定されました。(1801 年～1890 年)

キリストの輝き

ヘンリー・ニューマン枢機卿

主よ、私たちの行くところに、
イエスの香りが広がっていきますように。
私たちの心に、
あなたの霊といのちを溢れるほどに注いでください。
私たちのすべてを貫き、
あなたのものにしてください。
私たちの人生が、あなたの輝きになるほどに。
私たちの中で輝き、
また私たちを通して輝いてください。
出会うすべての人が、
私たちの心の中にあなたを感じることが出来ますように。
その人たちがもはや私たちを見るのではなく、
私たちの中にイエスだけを見ますように。
私たちと一緒にいてください。
そうすれば、
私たちはあなたと同じように輝き始めるでしょう。
世の光になれるでしょう。
イエスよ、
すべての輝きはあなたからのものです。
私たちのものではありません。
私たちを通して輝いているのは、あなたなのです。
周りにいる人々にあなたの輝きをもたらし、
あなたを讃えることが出来ますように。
言葉ではなく私たちの生き方によって、
そして、
私たちの心があなたへの愛にみちているという
明らかな事実によって。
アーメン。



JCNA の軌跡を改めて知ることは、JCNA の底に流れるスピリットに帰り、今この時の活動への原動力とこれから続く未来への希望につながると思いました。

薄島和子様 文章を寄せてくださり、また 11 月のインタビューもありがとうございました。

★第 66 回 JCNA 全国総会 からの報告★

2021 年 10 月 30 日（土） ZOOM にて
第 66 回 全国総会が開催されました。

総会の様子や、総会を経て決定された内容等報告します。



*本部顧問司祭講話はマルコによる福音第 1 章 40 節～45 節からでした。

*全札幌支部顧問司祭渡邊義行神父様、前大分支部顧問司祭大川甚吉神父様、ほかの帰天者のために黙祷しました。地上で私たちに奉仕して下さった方々に主の祝福が豊かにありますように。

*一番大きな決定は、年度の区切りを変更した（日本の社会に合わせた）ことです。

9 月 1 日～翌年 8 月 31 日 ⇒ 4 月 1 日～翌年 3 月 31 日

よって 2021 年度は 2021 年 9 月 1 日～2022 年 3 月 31 日の 7 か月間に短縮されます。

これが、以下のすべてに影響しています。

*2020 年度の決算及び 2021 年度の予算案は下記の通りです。

2021 年度の予算案は 2022 年 8 月 31 日までの年度で立てており急遽「3 月まで」に修正しました。

（この時点では 2022 年の 3 団体大会の予算を組みましたが、開催されないことになりました）。

この予算の目玉は新卒会員募集に焦点を絞った広告費です。リーフレットを作り直します。

新たに 4 月からの予算案を次の全国総会に提示します。

本部会費の納入は以後毎年 1 月末まで（今回に限り 2 月末まで）となります。

*企画オンライン研修会「今この時歴史をつなぐ」11 月 27 日（実行済）

*企画オンライン早春黙想会（指導 広島支部顧問司祭山口道晴神父様） 2 月 11 日（実行済）

*第 67 回全国総会 オンラインにより 2022 年 5 月に開催とする

*本部役員を募集しています。会計の後任者、及び国際渉外担当者（英語力のある方）。

◇会計報告につきましては、次ページに掲載します。

★招待研修の報告 「日本カトリック医療施設協会第 56 回全国大会 in 姫路」

山口会長は 2021 年 11 月 5 日 6 日、この大会に招待されて参加しました。

テーマは「すべてのいのちを守るため」、会場は新築された「姫路アクリエ」、方式はハイブリッド。医療施設協会の底力と姫路聖マリア病院様の多大なご奉仕の上に成り立った大会です。初日は開会ミサと講演、総会と功労賞授賞式、2 日目は研究発表、派遣ミサ。5 日の夜には菊地功大司教様、石丸伸司会長様、篠崎文彦医師会長様、講師の秋葉悦子様と貴重な会話に参加させていただきました。この講演の豊かな内容については、YouTube でご覧になった方もあると思います。

会長は、この大会でコロナ禍における大会運営について多くの示唆を受けて帰りました。

☆早春黙想会の開催ご報告

2022 年 2 月 11 日（金） 世界病者の日、ZOOM による第 2 回早春黙想会を開催しました。

2 部で話された「死」について、キリスト教は信仰・希望・愛を大切にしている。「死」を特別のものではなく私たちがどう生きるかということ、医療という現場での「死の準備」を改めて考えようと思いました。会計報告 第 66 回総会にて決議された内容です。

2020年度 日本カトリック看護協会決算書

(2020年9月1日～2021年8月31日)

収入の部 (単位:円)

項目	予算額	決算額	前年増減	摘要
前年度繰越金	6,700,845	6,700,845		
協会費		4,000		2020年分
前受金	790,000	734,000		2021年分 会員183名 準会員1名
寄付金		33,000		長崎支部、山口会長、小池さん(新潟)
バザー収益		0		
貯金利息	250	106		
雑費		0		
収入合計				
総合計	7,491,095	7,471,951		

支出の部 (単位:円)

管理費項目	予算額	決算額	前年増減	摘要
国際渉外費	100,000	89,418		CICIAMS年会費2020年2021年分(円換算)
国内渉外費	10,000	60,000		暮林神父感謝札2万 こうのとりのり・カリス相馬寄附各2万
本部役員会会場費	10,000	0		zoom会議のため
通信運搬費	30,000	43,578		送料、手数料 インターネット関係
旅費交通費	400,000	0		会議、大会などなかったため
印刷費	40,000	32,084		通信作成費
消耗品費	20,000	16,021		事務用品 プリンターインク代 封筒代など
日本カトリック医師会	10,000	10,000		1年分
中央協議会公認団体更新料	10,000	10,000		1年分
日本カトリック医療団体	20,000	20,000		拠出金
雑費	1,000	50		山口会長へ送金間違い
小計	651,000	281,151		
事業費項目				
全国大会費(3団体合同大会)	300,000	0		大会開催なし
全国総会費	300,000	0		zoom開催
J C N A 広告関係費	75,000	67,100		カトリック新聞広告費(3回分)
CICIAMS関連費	300,000	0		積立は無し
医療団体協議会関連費	50,000	0		運営員会リモート開催
保存資料作成費	30,000	0		JCNA資料電子データ化手数料実質支払い無し
小計	1,055,000	67,100		
予備費	100,000	0		
当年度合計	1,806,000	348,251		
次年度繰越金		7,123,700		

ゆうちょ銀行通常貯金	3,109,139
ゆうちょ銀行定期貯金	4,000,000
現金残高	14,561
合計	7,123,700

科目の流用を認める
 今年度は、コロナ禍で異例の状態となり全国大会などの活動がなかったため、422,855円の黒字決算となりました。しかし、会員数は毎年減少しており、今後は厳しい状況が考えられます。2021年9月 本部会計 石原 康子

2021年度 日本カトリック看護協会予算書

(2021年9月1日～2022年3月31日)

収入の部 (単位:円)

項目	予算額	決算額	前年増減	摘要
前年度繰越金	7,123,700		422,855増	
協会費	2021年分			2021年会費758,000円 会員189名 準会員1名分
前受金	2022年分	750,000		
寄付金				
バザー収益				
貯金利息	100			
雑費				
収入合計				
総合計	7,873,800			

支出の部 (単位:円)

管理費項目	予算額	決算額	前年増減	摘要
国際渉外費	100,000			CICIAMS年会費(2022年2023年分)
国内渉外費	30,000		20,000増	謝礼金 寄付金
本部役員会会場費	10,000			zoom以外で会議の場合のため
通信運搬費	45,000			送料、手数料
旅費交通費	200,000		200,000減	本部役員会対面実施を見込んで
印刷費	40,000			通信作成費
消耗品費	20,000			事務用品など
日本カトリック医師会	10,000			1年分
中央協議会公認団体更新料	10,000			1年分
日本カトリック医療団体	20,000			拠出金 1年分
雑費	1,000			
小計	486,000			
事業費項目				
全国大会費(3団体合同大会)	300,000			3団体合同大会参加者援助金 記念DVD代
全国総会費	100,000			
J C N A 広告関係費	275,000			HP関連費、新聞広告費 学校関係 パンフレット代
CICIAMS関連費	100,000		200,000減	大会参加不可能だが関わりを継続するため
医療団体協議会関連費	50,000			運営員会交通費(会長・副会長参加 姫路)
保存資料作成費	30,000			JCNA資料電子データ化のため
小計	855,000			
予備費	100,000			
当年度合計	1,441,000			
次年度繰越金				

ゆうちょ銀行通常貯金	3,109,139
ゆうちょ銀行定期貯金	4,000,000
現金残高(繰越金)	14,561
合計	7,123,700

科目の流用を認める
 前年度会員数 193名(-4名) 準会員数 1名

予 告

第 67 回 JCNA 全国総会は 2022 年 5 月 21 日（土）オンライン開催

開催時間 10:00~12:00 休憩後 13:30~16:00（議事終了次第閉会）

追記 1

CICIAMS 倫理ガイドラインは、この通信 4 ページ第 4 代薄島会長の回想にある通り、第 5 代城会長の時、翻訳されて全支部に配布されました。

これは世界のカトリックナースの看護倫理ガイドラインです。日本のカトリックナース、私たちにこのガイドラインが守れるか、護れないのはどこか、何か、日本の社会に対して何ができるか次にこのガイドラインを検討する世界大会があるとすれば、JCNA は何をどう提案するか、とりあえず、会員一人ひとりの専門の立場に立って、読み直し、お考えいただければ幸いです。ガイドラインは、束縛するものでなく、支えるものとお考えください。

追記 2

JCNA 紹介リーフレット、お届けしました。活用、よろしくお願いします。

もう 1 つ追記

ウクライナの災難を知って

教皇ヨハネ・パウロ II 世教皇の広島訪問を記念して、広島教区では「ピース 1981」という研修を続けてきました。いま、これもコロナ禍中止。しかしそのメッセージは今こそ重要です。

「各国で数多くのより強力で進歩した兵器が造られ、戦争へ向けての準備が絶え間なく進められています。それは、戦争の準備をしたいという意欲があるということであり、準備が整うということは戦争開始が可能だということを含意し、さらにそれは、ある時、どこかで、何らかの形で、誰かが、世界破壊の恐るべきメカニズムを発動させるという危険を冒すということです。」まさに今がそうです。

「人類は紛争や対立を平和的手段をもって解決するにふさわしい存在です。」「険しく困難ではありますが、平和への道を歩もうではありませんか」と呼びかけられたヨハネ・パウロ II 世教皇のメッセージを読み返しましょう。11 か国語を駆使されたあの力強い訴えを思い起こし、人々の苦しみを思い、

「戦争には平和をもってこたえることができるよう、英知と、勇気をお与えください」と祈りつつ。

（会長 山口郁乃）

編集後記

JCNA 本部に温かなご支援をありがとうございます。

年明けからのオミクロン株のコロナでまたまた、先の見えない状態に引き戻された感があります。医療現場はとにかく日々コロナで、逼迫するばかりです。

2 月 11 日に行われた山口道晴神父様の黙想会で、私たちを導いてくださるのは神様、意味のない苦しみもない…日々導いてくださるのは神様、謙虚でいること、とにかく祈りましょう…

再び祈ること、行動すること…に気づかされました。

みなさまもコロナ禍 くれぐれもご自愛ください。

2022.2.28 本部 書記 藤井智恵美

